

所信

一般社団法人海部津島青年会議所

2019年度 副理事長兼特別委員長 平野伸弥

一昨年、創立55周年を迎えた当青年会議所は、60周年を見据えた5ヶ年の活動指針として会員の「拡大」と市民との「協働」を掲げました。その指針の一翼を担う会員拡大は、10年以上も前からその必要性が謳われております。近年は会員減少の危機が深刻化し、いよいよ本年度は当青年会議所にとっても危険水域まで達したと言えるでしょう。なぜ5ヶ年の活動指針に「拡大」を掲げているのか、若しくは掲げざるを得なかったのか。この活動指針が示す意味をどのくらいのメンバーが理解し、そして自分事として捉えているでしょうか。我々は今まさに海部津島青年会議所解散の危機に瀕しているのです。メンバー全員がそれを認識し、今一度己を奮い立たせ行動していかねばなりません。

当LOMは会員拡大期間と新入会員育成期間を有しており、年間を通した拡大運動を実施することが難しい状態にあります。この長引く会員減少の波を乗り越えるには、期間を定めた拡大運動ではなく、会員拡大と新入会員育成を共に進める絶え間ない拡大運動が必要なのです。そして、候補者を入会に導くためには、コンタクトの数と質を求められます。しかし、候補者と会い、その場で青年会議所の魅力を伝えることは容易ではなく、そもそも会うことすらできないことも多々あります。このような状況を鑑み、候補者にメンバーとの有益な交流の機会を設け、互いに理解を深める中で青年会議所の魅力を伝えるという取り組みを行ってまいります。さらに、自らが明るい豊かな社会をつくるという強い使命感を掻き立てることで、共に歩みを進める同志として迎え入れてまいります。

青年会議所は厳しい規律をもつ組織です。その中で得られる学びや気づきは、普段の生活では得難い貴重なものばかりであり、青年会議所活動への意欲を高めていくものでもあります。つまり、会員を育成するには、組織の一員として活動を共にすることが欠かせないのです。そのために、入会の浅いメンバーや候補者は、まず組織の規律を学ばなければなりません。また、その過程で細かな配慮を欠かさず行ってまいります。そして、新たに迎える同志たちがもつ青年会議所活動への意欲と、我々の青年会議所への熱い想いを共有し、情熱に満ちた人財へと共に成長してまいります。

我々が変革の能動者であるというならば、如何なる状況も言い訳にせず、この長引く会員減少の連鎖に終止符を打たなければなりません。今を変えられるのは行動しかありません。怒涛の拡大運動を巻き起こすべく、力強く行動してまいります。

所信

一般社団法人海部津島青年会議所

2019年度 副理事長 藤田哲朗

我々が活動範囲とする海部津島地域は、由緒ある寺社仏閣や祭りの伝統、繊維産業で栄えた過去、水郷地帯としての歴史など様々な個性を有しています。これらの個性は、ひとりではできなかったものではなく、先人の想いと行動の一つひとつが積み重なり形成されたものです。先人たちの数えきれないほどの涙や汗、命懸けの苦労があってこそ今があるという認識を新たにして、海部津島地域があることの有難さを実感することが必要です。

この地に住み暮らしてきた人々は、このまちの明るい未来を願い、発展に尽力をされてきました。その恩恵を受けて今を生きる私たちはまず、次代に恩送りをする大きな責任を自覚するべきではないでしょうか。そして我々は、市民の方々がその責任を重荷として受けとめるのではなく、過去と未来をつなぐ当事者であることに幸せを感じ、その役割を担う喜びとして分かち合うことができるように、運動発信を進めていく必要があります。それはつまり、まちの役に立ちたいという心地よい熱をもった市民の方々を増やしていくことです。我々の深い情熱が人々の心に伝われば、想いは一人ひとりの前向きな行動となり広がっていくと考えます。

そして、その行動を持続させるもの、まちを豊かにするためのエネルギーは、郷土愛そのものであり、日常の中で生まれる笑顔の積み重ねによりその愛情は大きくなります。このまちに育ててもらった、このまちを守りたい、このまちをより良くするという意欲に溢れた人財を創造するためには、このまちでの温かくやさしい思い出を心に刻んでいただくことが重要です。さらに、市民のみなさんと心弾む気持ちを共有することにより、その効果は何倍にも増幅され、この地域で住み暮らす全ての人にとって、海部津島地域はかけがえのないまちになると確信します。

我が親を思うがごとく、郷土への感謝の気持ちを常に忘れず、我が子を思うがごとく、郷土の発展を心から願う。そのような想いがあれば、決して他人まかせにしたり、自分の時間を費やすことを惜しんだりはしません。家族のような愛でつながれたまちを未来へ贈るために、我々は想いを生み広げる人財づくりを展開してまいります。

所信

一般社団法人海部津島青年会議所

2019年度 副理事長 加藤昌之

21世紀に入り、ブロードバンド回線やデータ通信端末、公衆無線LANや携帯電話の普及発達により、常時インターネットを使用できる環境が整ってきており、情報技術が生活の中に深く浸透してきました。端末一つで、様々な情報を瞬時に得ることができる今の環境は一昔前と比較すると格段に便利になったと言えます。しかし、今の子どもはその便利さゆえに、まずはインターネットを頼りに情報を得て様々な判断をしています。我々が子どもの時は何が正しいかを模索しながら失敗や成功を重ねることで自立のための経験値を増やしてきました。青少年期におけるその積み重ねが、独立自尊の精神を備えた人間に成長するために必要不可欠であると考えます。併せて、大人は子どもにとって学ぶ機会を創り出し見守る存在でなくてはなりません。そのためにも、子どもの成長する力を信じ、子どもの自主性や独自性、好奇心を受け止める姿勢が必要です。自ら考え行動しゴールに向かって進んでいく機会を創り、子どもの意思を尊重する親へと導くことで、目的意識をもち未知なることにも果敢に挑戦できる青少年を育成します。

昨今のIT技術の発達により、ホームページはもちろんのこと、Facebook、Instagramに代表されるSNSなどの増加により、情報の発信と収集が誰でも気軽に行えるようになりました。しかしその反面、発信の方法を誤れば情報を目にさせていただくことすらままならない非常に厳しい時代になったとも言えます。我々の活動を多くの方に正しく広めたい。そのためには、情報を効果的に発信する根本的な方法を一連の流れとして学び実践する必要があります。また、一連の流れの中で己を顧み自身の価値を高めることにつながります。地域に輝き続ける青年会議所であるために、メンバーの発信力を高めつつ己を磨き、市民の皆様の方に力強く発信することで海部津島青年会議所の価値をより明確にしていきます。